

県内遺跡発掘調査報告書

—遺跡詳細分布調査7—

平成28年3月

長野県教育委員会

はじめに

本県は、本州のほぼ中央に位置し、古来より東日本と西日本、太平洋側と日本海側を結ぶ結節点として多くの人々が行きかい、人々の交流を通して長い歴史を刻み、地域ごとに個性豊かな文化を築き上げてきました。

これまでに県内で発見された遺跡は14,600箇所以上を数えます。これらの遺跡を保護し、未来へ継承していくこととともに、遺跡から祖先のたくましい英知を読み取り、今を生きる人々へそれらを伝えていくことが、われわれの責務であると考えます。

現在、長野県においては、高速交通網の整備に伴い、高規格幹線道路やリニア中央新幹線、国道・県道のバイパス建設工事等、大規模な開発事業が計画されています。開発事業と遺跡の保護を円滑に進めるためにも、遺跡の位置や範囲、性格などを、事前に把握し、適切な保護措置を図っていく必要があります。

本報告書は、平成25年度から27年度にかけて、長野県が国庫補助金を受けて実施した大規模開発事業にかかる埋蔵文化財調査の結果をまとめたものです。開発予定地内の遺跡の保存に関して利用していくことは、もちろんのこと、広く埋蔵文化財の保護に活用いただければ幸いです。

調査の実施から報告書の作成まで、関係各位の御協力と御指導を賜りましたことに対し、心より感謝申し上げます。

平成28年3月

長野県教育委員会教育長 伊藤学司

例　　言

- 1 本報告書は、平成25～27年度にかけて長野県教育委員会が実施した、高規格幹線道路及びリニア中央新幹線建設予定地内の遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業として事業総額922,087円で実施し、その内訳は次のとおりである。

単位 円

年　度	国庫補助額	県負担額	合　計
平成25年度	139,000	139,185	278,185
平成26年度	87,000	88,142	175,142
平成27年度	234,000	234,760	468,760
合　計	460,000	462,087	922,087

- 3 本報告書は、長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課文化財係が執筆・編集した。

- 4 本調査及び報告書の作成にあたっては、下記の方々・機関に御協力を頼った。記して、謝意を表する。

(敬称略)

櫻井健治 佐久市教育委員会 飯田市教育委員会 阿智村教育委員会 阿智村

豊丘村教育委員会 喬木村教育委員会

国土交通省関東地方整備局長野国道事務所

東海旅客鉄道株式会社中央新幹線推進本部中央新幹線建設部環境保全事務所

一般財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター

長野県文化財保護審議会 史跡・考古資料部会（会田 進、小野 昭、笛澤 浩）

目 次

はじめに

例 言

目 次

I	県内遺跡調査	1
II	中部横断自動車道建設予定地内の分布調査	2
1	概 要	
(1)	中部横断自動車道建設の経過	2
(2)	中部横断自動車道建設予定地内の詳細分布調査の経	2
2	調査の目的	2
3	調査組織	3
4	調査方法	3
5	調査概要	3
(1)	前の久保遺跡隣接地	3
(2)	地家遺跡隣接地	7
III	リニア中央新幹線建設予定地内の分布調査	10
1	概 要	10
(1)	リニア中央新幹線建設の経過	10
(2)	リニア中央新幹線建設ルート上の分布調査の経過	10
2	調査の目的	10
3	調査組織	11
4	調査概要	11
(1)	平成26年度現地踏査	11
(2)	平成27年度現地踏査	13
(3)	試掘確認調査—阿智村荻の平遺跡—	14

報告書抄録

I 県内遺跡調査－詳細分布調査－

長野県教育委員会（以下県教委）では、複数の市町村にまたがる大規模開発事業に関連して、遺跡詳細分布調査を行ってきた。その間、文化庁では、平成10年9月29日付け府保記第75号「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について」の文化庁次長通知で、「都道府県は、大規模な、あるいは複数の市町村にまたがる埋蔵文化財の保護及びこれらに係る開発事業との調整、発掘調査を行い、重要な遺跡の保存、活用等を推進するとともに、管内の市町村における埋蔵文化財保護行政に関する指導・援助及び連絡調整を行うことが求められる。」と、都道府県の役割について、通知を行った。県教委では、この通知に沿って、中部横断自動車道、リニア中央新幹線の建設予定地を対象に詳細分布調査を実施し（図1）、地元市町村教育委員会や開発主体者との調整等を行ってきた。

また、文化庁は、平成16年10月29日『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）』で「報告書の刊行は、報告書の完成が発掘調査の完了であること、調査成果は可能な限りすみやかに公表する必要があることから発掘作業終了後おおむね3年以内に行う必要がある」としている。本報告は、平成25～27年度に実施した詳細分布調査の報告である。

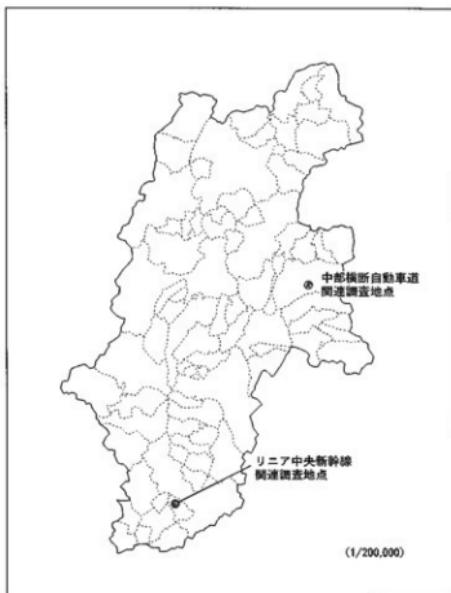


図1 県内遺跡－詳細分布調査－対象箇所

II 中部横断自動車道建設予定地内の分布調査

1 概 要

(1) 中部横断自動車道建設の経過

中部横断自動車道は、長野県佐久市と静岡県静岡市（旧清水市）を結ぶ全長約132kmの高速自動車道路である。

基本計画は、平成3年12月20日に長野県佐久市から長野県佐久穂町（旧八千穂村）にかけての22.4km、平成9年2月5日に佐久穂町（旧八千穂村）から山梨県北杜市（旧長坂町）にかけての約38kmについて決定された。

整備計画は、平成8年12月27日に上信越自動車道分岐点となる小諸佐久ジャンクション（以下、JCT）～佐久南インターチェンジ（以下、IC）が決定され、平成10年12月25日に佐久南IC～八千穂ICが決定されている。また、平成10年4月8日に、小諸佐久JCT～佐久南ICまで、日本道路公团（現在は東日本高速道路株式会社）に施行命令が出され、平成15年12月25日には、小諸佐久JCT～八千穂IC区間が、国土交通省の新直轄方式で整備されることとなった。平成23年3月26日には、佐久小諸JCT～佐久南IC間が開通し、平成29年度には八千穂ICまでの開通が予定されている。

(2) 中部横断自動車道建設予定地内の詳細分布調査の経過

長野県教育委員会は、平成3年の基本計画決定を受けて、平成6年12月と平成7年3月に佐久市から旧八千穂村間の予想ルート内を踏査し、遺跡の存否と範囲の確認を行った。その後、小諸佐久JCT～八千穂ICのルートがほぼ確定したことにより、この区間の分布調査を平成10年12月と平成11年1月・11月・12月、平成13年2月に実施し、保護措置を講ずべき遺跡、試掘調査の対象とすべき地籍の選定を行った。平成15年からは、本線工事の着工に先立ち、小諸佐久JCT～八千穂IC間の試掘調査を開始した。

小諸佐久JCT～佐久南IC間の試掘調査は平成18年度までに終了し、記録保存のための本発掘調査が必要な遺跡が確定した。なお、同区間の発掘調査は長野県埋蔵文化財センターが平成13年度から実施しており、平成27年3月にすべての遺跡の発掘調査報告書が刊行されている。

佐久南IC～八千穂ICについては、平成18年に再度現況調査を実施し、試掘調査対象地の確認及び見直しを行い、平成19年度から試掘調査を継続的に実施している。

ここでは、平成25年度～平成26年度の2か年に実施した調査結果を報告する。調査地の地点及び所在地等については、図2に示した。調査地の名称は、隣接する遺跡名に「隣接地」を付して表現した。また、平成20年度当初に試掘調査予定地の整理を行い、調査予定14箇所を確定させ、北から「試掘1」「試掘2」……と表記した。

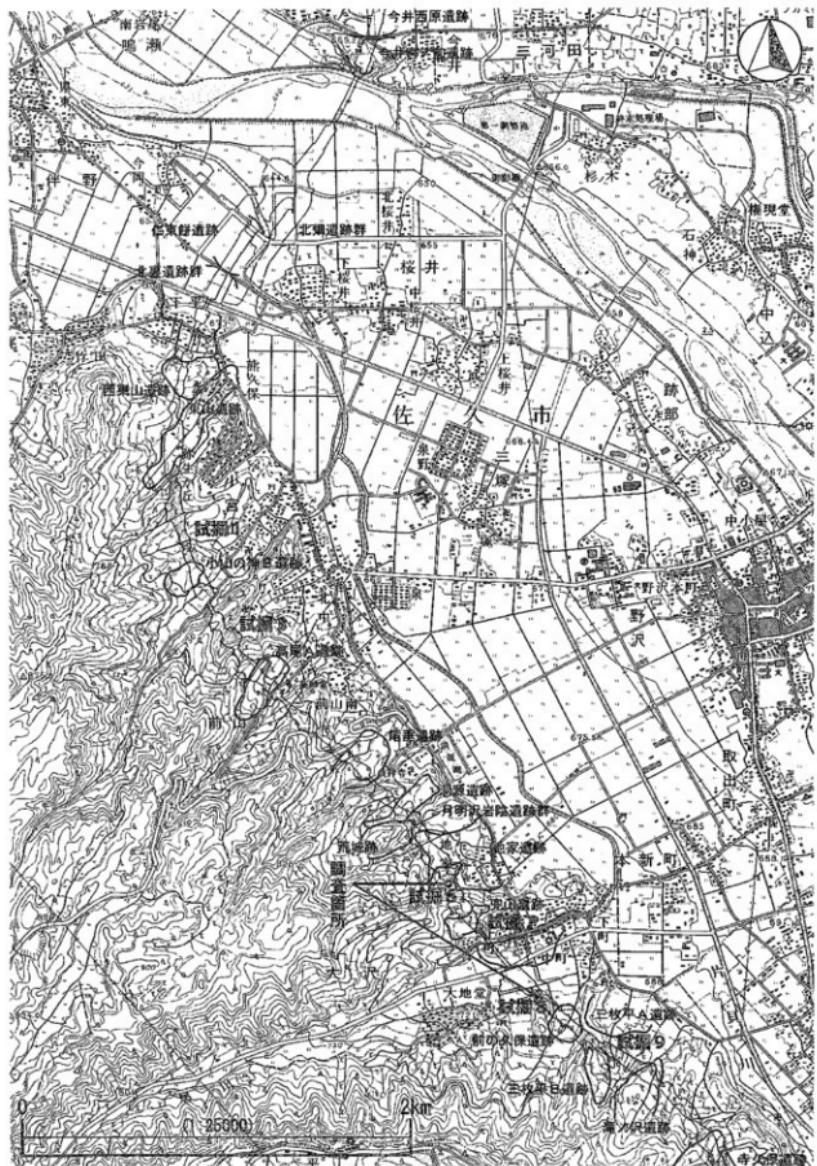


図2 中部横断自動車道建設予定地と調査地

2 調査の目的

大規模開発事業の円滑な進展と埋蔵文化財の適切な保護との調和を図るため、事業計画予定地内の周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）周辺地を踏査し、試掘調査が必要と判断した箇所について試掘調査を実施し、包蔵地の範囲拡大及び新発見の包蔵地の有無を確認する。さらに、試掘調査結果をもとに、保護措置を事業者等と協議することを目的とする。

3 調査組織

調査主体 長野県教育委員会

調査指導 長野県文化財保護審議会

調査協力 佐久市教育委員会

国土交通省関東地方整備局長野国道事務所

一般財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター

4 調査方法

事業計画地内において、本発掘調査が必要な埋蔵文化財包蔵地の有無を確認するための試掘調査である。そのため、地形等から類推して、広範囲に試掘溝（トレンチ）を設定し、重機等で掘削した後、人力で造構・遺物の有無を確認した。トレンチの設定に際しては、現地の近代以降の造成状況、地形、その他を勘案した。掘削を開始し、造構等が把握できた段階で、埋蔵文化財包蔵地の範囲拡大または新発見となり、当該地の市町村教育委員会に確認、協議を求ることとしている。

5 調査概要

(1) 前の久保遺跡隣接地 佐久市大沢1650ほか 試掘 8－2

① 調査対象地の概要

前の久保遺跡は丘陵状の尾根に立地し、古墳～平安時代の集落跡である。中部横断自動車道建設に伴い平成20年度及び23年度に長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施している。今回は、周知の埋蔵文化財包蔵地外で、遺跡範囲拡大の有無を確認するために実施した。

② 調査期間

平成25年11月5日（火）～11月8日（金）

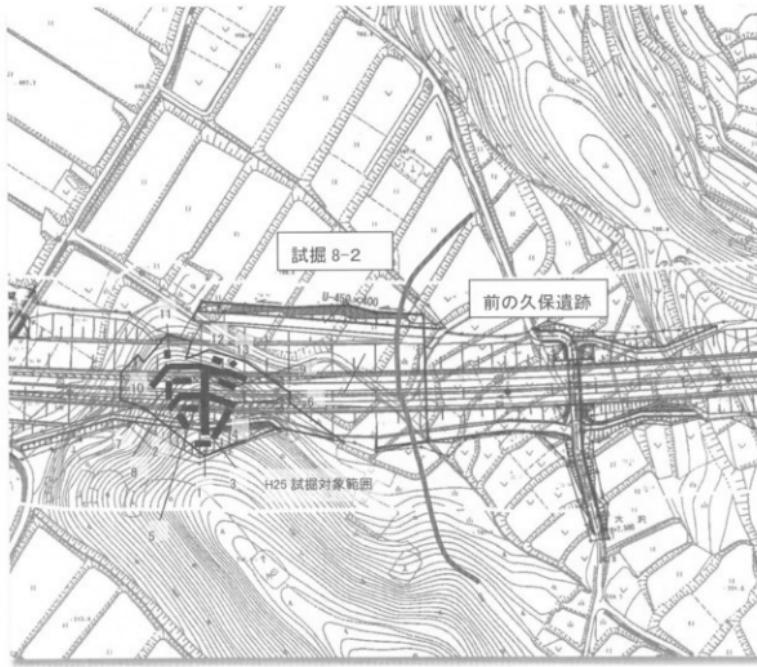


図3 試掘8-2調査区全体図（数字はトレンチ番号）

③ 調査方法

トレンチ（試掘溝）による。トレンチは重機により表土を掘削し、それ以下の堆積層については状況に応じて人力掘削を実施した。その後、地山上面での遺構確認のための精査、堆積状況を確認するためトレンチ壁面の精査を実施した。トレンチは、13本を設定した。今回の試掘調査地点は、丘陵の北斜面にあたり、対象面積2,490m²に対して、405m²（16%）をトレンチで掘削した。

④ 調査所見

ア 層序

トレンチ2・3・4の斜面上部で表土（約10~20cm）の直下がすぐに地山となっている。他では、表土下と地山の間にはボソボソとした黒褐色土（約20~60cm）が堆積するが、遺物包含層ではなく、これは地山が風化したものとみられる。地山は湖成層である相浜層であり、地元では「ナメ土」と呼ばれる非常に堅固な層である。

イ 遺構と遺物

トレンチ内では遺構は検出されず、遺物の出土もまったく認められなかった。



写真1 試掘8-2（前の久保遺跡隣接地）
調査地遠景（北から）



写真2 トレンチ1 調査風景（東から）



写真3 トレンチ2（左）、トレンチ3（右）
完掘状況（南から）

⑤ 今後の保護措置について

上記の状況から、前の久保遺跡の範囲拡大の必要性はないと判断した。

(2) 地家遺跡隣接地 佐久市大沢686-1ほか 試掘 6－2

① 調査対象地の概要

地家遺跡は、縄文時代から中近世の集落跡・寺院跡である。中部横断自動車道建設に伴い平成21年度～23年度、25年度・26年度に長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施している。今回は、周知の埋蔵文化財包蔵地外で、遺跡範囲拡大の有無を確認するために実施した。

② 調査方法

トレンチ（試掘溝）による。トレンチは重機により表土を掘削し、それ以下の堆積層については状況に応じて人力削削を実施した。その後、地山上面での遺構確認のための精査、堆積状況を確認するためトレント面の精査を実施した。トレンチは、4本を設定した。今回の試掘調査地点は、丘陵の北斜面にあたり、対象面積990m²に対して、60m²（6%）をトレンチで掘削した。

③ 調査期間

平成26年10月21日（火）～10月22日（水）

④ 調査所見

ア 層序

トレンチ4では表土（約25cm）直下がすぐに地山となっているのに対し、トレンチ1～3では、畑造成時の盛土からなる表土下に旧表土（第2層・約20cm）がみられる。この第2層直下の第3～4層は南側斜面から流れ込んだ礎混じりの土層であり、地山を溝状に大きく掘り込んで削平している状況がみてとれた。第3層（約30cm）は礎を多く含む黒色シルト土であり、少量の土器を含んでいる。第4層は暗褐色砂質土であり、削平された底面まで掘り下げるとは安全面から実施しなかったが、2m程の堆積はあるものと推定される。

イ 遺構と遺物

第3層から縄文時代～平安時代の土器片が少量出土した。第3層は礎を多く含む黒色シルト土であり、上記の土器片も流れ込みによるものと判断した。また遺構は確認できなかった。

⑤ 今後の保護措置について

上記の状況から、地家遺跡の範囲拡大の必要性はないと判断した。

大沢第二橋（仮称）付近平面図 S=1 400

500

← 佐久南IC
STA. 120+79. 24
A=87.5 L=306. 250

八千穂IC（仮称）→

STA. 122

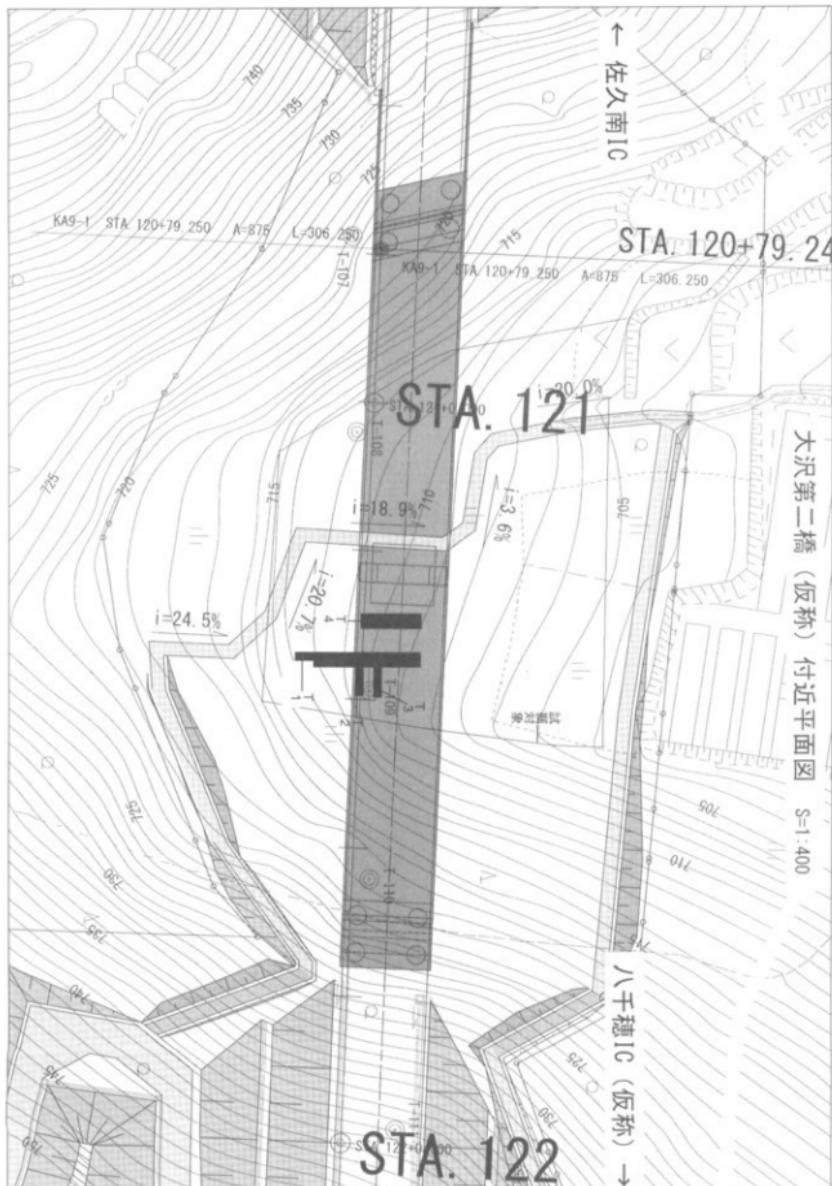


図4 試掘6-2 調査区全体図（数字はトレンチ番号）



写真4 試掘6-2（地家遺跡隣接地）
トレンチ1掘削風景（南から）



写真5 トレンチ2・3 作業風景
(西から)



写真6 トレンチ1～4 完掘状況
(南から)

III リニア中央新幹線建設予定地内の分布調査

1 概 要

(1) リニア中央新幹線建設の経過

リニア中央新幹線（正式名称は、「中央新幹線」）は、昭和48年（1973年）11月に全国新幹線鉄道整備法に基づく基本計画路線と位置付けられた。平成23年（2011年）5月、国土交通大臣により整備計画が決定され、東海旅客鉄道株式会社（以下「JR東海」という。）に対して建設が指示された。

高速輸送を目的とし、超電導磁気浮上式リニアモーターカーにより、東京都と大阪市を結ぶこととなる。東京都・名古屋市間開業が平成39年（2027年）、東京都・大阪市間の全線開業は平成57年（2045年）とされている。

JR東海は、平成23年（2011年）8月に「中央新幹線（東京都・名古屋市間）計画段階環境配慮書」を、9月には「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価方法書」（以下「方法書」という。）を公表した。「方法書」のなかで、幅3kmの路線通過予定地と直径5kmの駅設置予定地が示された（図16）。

その後、平成25年（2013年）9月に公表された「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書」（以下「準備書」という。）で、ルート及び長野県駅の位置等が示された。

(2) リニア中央新幹線建設ルート上の分布調査の経過

平成24年度に「方法書」で示された幅3kmの路線通過予定地を対象に、飯田市、高森町、大鹿村、喬木村、豊丘村で、当該市町村教育委員会とともに現地踏査を実施した。

平成26年度は、「準備書」に示されたトンネル非常口及び工事ヤード設置個所及び土砂運搬等に伴う道路拡幅工事個所等を対象に、当該市町村教育委員会とともに現地踏査を実施した。

平成27年度は、「準備書」に示された本線通過部分及び長野県駅設置個所を対象に、飯田市、喬木村で、当該市町村教育委員会とともに現地踏査を実施した。加えて、平成26年度に現地踏査を実施した阿智村に計画されているトンネル非常口及び工事ヤード設置個所（萩の平遺跡）について、試掘確認調査を実施した。

2 調査の目的

大規模開発事業の円滑な進展と埋蔵文化財の適切な保護との調和を図るため、事業計画予定地内の周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）周辺地を踏査し、試掘調査が必要と判断した箇所について試掘調査を実施し、包蔵地の範囲拡大及び新発見の包蔵地の有無を確認する。さらに、試掘調査結果をもとに、保護措置を事業者等と協議することを目的とする。

3 調査組織

調査主体 長野県教育委員会

調査指導 長野県文化財保護審議会

調査協力 飯田市教育委員会、阿智村教育委員会、阿智村、豊丘村教育委員会、喬木村教育委員会

東海旅客鉄道株式会社中央新幹線推進本部中央新幹線建設部環境保全事務所

4 調査概要

(1) 平成26年度現地踏査（平成26年12月15日）

① 阿智村萩の平遺跡（阿智村萩の平地区非常口及び工事ヤード設置箇所）

日照が少なく、川と山に囲まれた平坦地で集落を形成するには不適であるが、分布調査で縄文前期土器・石器が採集されている。

工事ヤード部分は切り盛り造成を実施し、工事用道路は供用後は管理用道路として利用する見込み。

長野県教育委員会（以下、「県教委」という。）は試掘調査を実施して埋蔵文化財の有無及び内容を把握する。実施時期は地権者同意が得られたあと。平成27年11月頃を予定。埋蔵文化財の存在が確認できた場合、JR東海は長野県埋蔵文化財センター（以下、「県埋文センター」という。）へ委託して記録保存調査を実施する。本調査の時期は平成28年度を予定。

② 阿智村石割遺跡（阿智村村道黒川線道路拡幅箇所）

昭和54年度の村道黒川線拡幅時に記録保存調査を実施。縄文早期竪穴住居3軒、前期1軒、中期1軒を確認している。

県教委は記録保存調査を実施した地域を中心に、路盤工部分の試掘調査を実施し、遺構・遺物の有無を確認する。遺構・遺物が確認された場合、JR東海は県埋文センターへ委託して記録保存調査を実施する。実施時期は未定。

③ 阿智村入古屋敷遺跡（阿智村村道黒川線道路拡幅箇所）

遺跡全体は日照条件に恵まれた緩斜面であり、集落域として適当な場所。縄文早期茅山式土器が出土している。ただし、村道に沿った部分は既に削平されている可能性がある。

県教委は道路拡幅の実施設計を見て対応を検討する。試掘調査範囲が確保できる場合は、山留工の範囲で、一応、試掘調査を実施する。埋蔵文化財の存在が確認できた場合、JR東海は県埋文センターへ委託して記録保存調査を実施する。

④ 阿智村洞根Ⅰ遺跡（阿智村村道黒川線道路拡幅個所）

縄文中期から後期前半の土器・石器が採集されているが、平坦地が狭く縄文中期の集落域を展開するには不向き。

県教委は路盤工部分の試掘調査を実施し、埋蔵文化財の有無を確認する。平成27年11月頃を予定。埋蔵文化財が確認された場合、JR東海は県埋文センターへ委託して記録保存調査を実施する。実施時期は未定。

⑤ 飯田市今宮城山城跡（飯田市丸山地区非常口及び工事ヤード設置個所）

非常口及び工事ヤードにからないため保護措置不要。

⑥ 飯田市座光寺石原遺跡（飯田市座光寺地区非常口及び工事ヤード設置個所）

非常口及び工事ヤードにからないため保護措置不要。

⑦ 飯田市ナギジリ3号古墳（飯田市座光寺地区非常口及び工事ヤード設置個所）

墳丘は果樹園の造成により削平されているが、基盤及び周溝が残存する可能性がある。

現在計画している工事ヤード範囲ならば保護措置不要。JR東海は工事ヤードの拡張をしない方向で検討すること。やむを得ず工事ヤード範囲を拡張する場合、県教委は試掘調査を実施して古墳の位置を確認した上で、改めて保護協議を実施する。試掘調査の実施時期は未定。

⑧ 飯田市欠野1・2号古墳（飯田市座光寺地区本線通過部分）

1号古墳は市道建設により一部欠損しているが、円墳の墳丘がほぼ残存している。2号古墳はお堂の設置により墳丘が削平されている。本線にからないため保護措置不要。

⑨ 飯田市天竜川河川敷（飯田市座光寺地区本線通過部分）

市消防局の建設に伴う工事立会で砂礫の堆積を確認している。現状の地形を観察するに、天竜川の氾濫原である可能性が高い。

本線設計ができるまでの間、飯田市教育委員会は付近の開発行為に伴って地下の状況を観察する。遺物包含層が確認されるなど埋蔵文化財の存在を予測させる状況の変化があった場合、県教委は試掘調査を実施する。

⑩ 豊丘村坂島地区（豊丘村坂島地区非常口及び工事ヤード設置個所）

伝承では当地区内で土器を採集したというが、文献調査では該当する遺跡はない。非常口及び工事ヤードにからないため保護措置不要。

(2) 平成27年度現地踏査（平成26年12月15日）

① 喬木村天竜川河川敷（喬木村阿島地区本線通過部分）

現状の地形を観察するに、天竜川の氾濫原である可能性が高いため、保護措置不要。試掘調査の対象外と判断する。

② 喬木村阿島北遺跡・土井場遺跡（喬木村阿島地区本線通過部分）

両遺跡について、JR東海は県埋文センターへ委託して記録保存調査を実施する。実施時期は未定。なお、両遺跡に挟まれた包蔵地外の部分については、記録保存調査の状況をみて、本調査が必要か否かの判断をし、保護措置について、県教委とJR東海とで協議を実施する。

③ 喬木村おくまんのん遺跡・熊野古墳（喬木村阿島地区本線通過部分）

おくまんのん遺跡と県道との間にについて、県教委は試掘調査を実施する。実施時期は未定。熊野古墳は煙滅したものと把握されているが、その位置について、喬木村教育委員会が精査した結果、埋蔵文化財包蔵地図上の位置ではなく、尾根上に位置していたと判断された。したがって、本線上には位置しないことが明らかとなったため、保護措置は不要。

④ 飯田市天竜川河川敷（飯田市座光寺地区本線通過部分及び保守基地建設箇所）

現状の地形を観察するに、天竜川の氾濫原である可能性が高いが、面積も広いことから試掘調査の対象区域としておく。県教委は、飯田市教育委員会による付近の工事立会の結果等を参考にし、試掘調査の計画を立案する。

⑤ 飯田市欠野1・2号古墳周辺（飯田市座光寺地区本線通過部分）

本線通過部分は、水田と畦畔が交錯する部分となっており、現状の地形からでは包蔵地の有無について判断が困難なこともあります。試掘調査の対象区域としておく。県教委は、飯田市教育委員会による付近の工事立会の結果等を参考にし、試掘調査の計画を立案する。

⑥ ママ下遺跡（飯田市座光寺地区長野県駅建設箇所）

飯田市教育委員会が実施した店舗。工場建設に伴う記録保存調査で、古墳時代後期から平安時代を中心とする集落遺跡と把握されている。JR東海は県埋文センターへ委託して記録保存調査を実施することとなるが、工事車両の進入が国道側からのみと想定されているため、工事工程と調査工程のすり合わせが極めて重要となる。本線は駅を出てすぐ西側でトンネルへと進むが、そこに相当する西浦遺跡。的場遺跡でも工事車両の進入等の工事工程はママ下遺跡でのものと一体で、今後の協議・調整が重要。

(3) 試掘確認調査—阿智村萩の平遺跡（非常口及び工事ヤード設置個所）—

① 調査対象地の概要

摺古木山（2,169m）を源流とする黒川に南面する小段丘に立地し、標高は900～920m、黒川との比高は30～40mを測る。発掘調査歴はなく、分布調査で縄文前期末～中期初頭の土器片・黒曜石片が採集されている。この小段丘には、家屋が建てられ耕作地として利用されていたが、水源が無く、飲料水等の水は黒川の対岸からひいていたようである。

黒川右岸にはこうした小段丘が点在し、いずれも縄文土器等が採集されており、上流側から、赤子遺跡、萩の平遺跡、石割遺跡、入古屋敷遺跡として周知されている。このうち、石割遺跡は村教育委員会により村道改築工事に伴う記録保存調査が実施され、縄文早期堅穴住居跡3軒、前期1軒、中期1軒が確認されている。また、入古屋敷遺跡からは、ほぼ完形の縄文時代早期末葉の東海系条痕文土器群（柏畑式か）が出土している。

② 調査方法

トレチ（試掘溝）による。トレチは重機により表土を掘削し、それ以下の堆積層については状況に応じて人力掘削を実施した。その後、地山上面での遺構確認のための精査、堆積状況を確認するためトレチ壁面の精査を実施した。また、崖錐性堆積物の混入が少ない区域（調査区南西隅）に含まれるトレチについては、遺物包含層と認識される黒褐色砂質土を人力で掘り下げ、遺構・遺物の確認を進めた。トレチは、4本を設定した。今回の試掘調査地点は、村道から20～30m下の南東に面した緩傾斜地で、工事計画範囲（約6,300m²）のおよそ2割に相当し、緩傾斜地約1,340m²に対して、47.4m²（3.5%）をトレチで掘削した。

③ 調査期間

平成27年11月16日（月）～同年11月18日（木）

④ 層序

いずれのトレチでも、耕作土、褐色砂質土、黒褐色砂質土の3層に大別され、風化した花崗岩を含む砂礫層の地山、崖錐性堆積物層に至る。耕作土はグライ化している層準で分層したが、褐色砂質土を基調としており、褐色砂質土自体が水田耕作以前の耕作土であった可能性がある。遺物は黒褐色砂質土からのみ出土した。遺物包含層と認識し得るが、出土遺物は極めて少ない。また、トレチ相互の位置関係から、耕作土直下が地山という箇所が帶状に2列認められ、旧地形は3段の平坦面を伴う緩斜面であったことが想像される。

⑤ 遺構と遺物

いずれのトレチでも遺構は確認できなかった。遺物は、縄文時代の土器片5点・石器片7点が出土した。

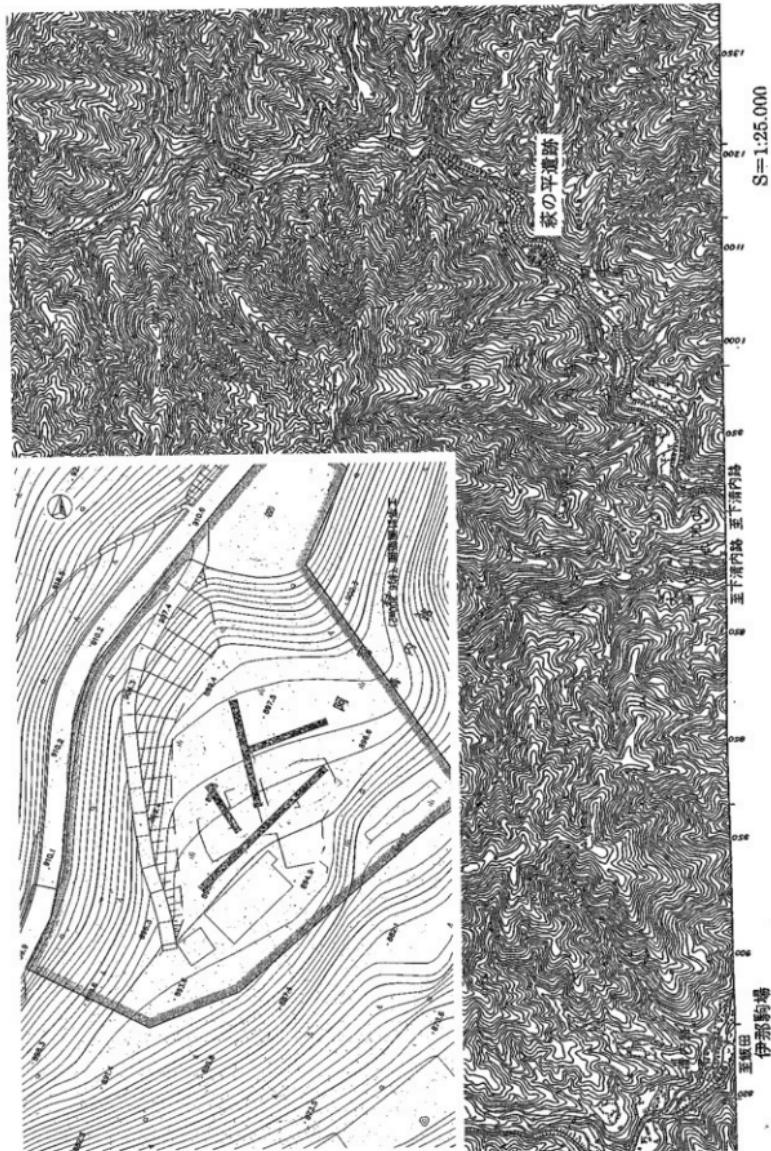


図5 萩の平遺跡位置図 トレンチ配置図

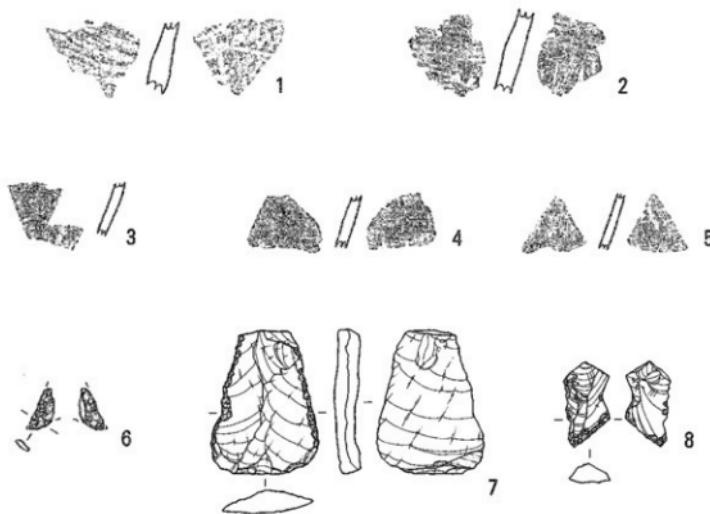


図6 萩の平遺跡出土遺物実測図（1～5は1:3、6～7は2:3）

1・2は、縄文時代早期末葉の条痕文系土器群で、内外面とも粗い条痕が認められる。胎土に纖維を含む。1はトレンチ4から、2はトレンチ3から出土。3～5は、縄文時代早期末葉の東海系の条痕文系土器群と考えられる。3～5はトレンチ3から出土。6は、黒曜石製の石鎚脚部片。7は、チャート製のスクレイパー。6・7はトレンチ1南端部の地山への漸移層から出土した。8は、黒曜石製の使用痕のある剥片で、トレンチ4から出土した。図示しなかったが、黒曜石製の剥片が2点、トレンチ4から出土した。

⑥ 調査所見

黒川との比高が著しく、水入手しづらい地形的な制約のためか、生活の痕跡は認められなかった。出土遺物の点数が少なく、散在する状況から、いわゆる「散布地」として把握される。ただし、東海系の縄文時代早期末葉土器群の出土が本遺跡でも確認され、黒川流域の当該期を研究する上で好資料を得ることができた。

⑦ 今後の保護措置について

上記の状況から、面的な発掘調査は不要とし、保護措置は工事立会とする。なお、現存する家屋について、建造物としての調査が入ると聞いている。



写真7 萩の平遺跡全景（村道から）



写真8 萩の平遺跡近景（南から）



写真9 萩の平遺跡
トレンチ全景（村道から）



写真10 萩の平遺跡
トレンチ 1 全景（北から）

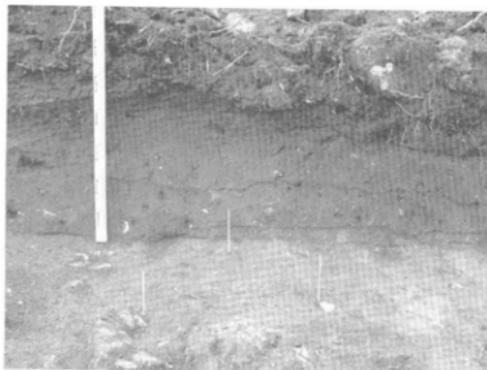


写真11 萩の平遺跡
トレンチ 1 南端部遺物出土状況
(東から)



写真12 萩の平遺跡
トレンチ 3 全景（南から）



写真13 萩の平遺跡
トレンチ 3 土層断面及び遺物出土状況（東から）



写真14 萩の平遺跡
トレンチ 4 遺物包含層掘削風景
(北から)



写真15 萩の平遺跡
トレンチ 4 調査状況（西から）

ふりがな	けんないいせきはくつちょうさほうこくしょ				
書名	県内遺跡発掘調査報告書				
副書名	遺跡詳細分布調査				
巻次	7				
著者名	長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課				
編集機関	長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課				
所在地	〒380-8570 長野県長野市大字南長野字幅下692-2 〠026-235-7441				
発行年月日	平成28年(2016)年3月30日				
試掘調査対象地					
ふりがな	ふりがな	コード	経緯度 (世界測地系)	調査期間	調査原因 大規模開発事業に伴う遺跡詳細分布調査(試掘調査実施箇所)
試掘調査場所	所在地	市町村			
まえのくぼいせきりんせつち	さくしおおさわ	20217	北緯 36° 12' 17.8" 東経138° 27' 31.3"	2013.11.5 ~2013.11.8	
前の久保遺跡隣接地 (試掘8-2)	佐久市大沢1650ほか				
ちけいせきりんせつち	さくしおおさわ	20217	北緯 36° 12' 41.4" 東経138° 27' 01.5"	2014.10.21 ~2014.10.22	
地家遺跡隣接地 (試掘6-2)	佐久市大沢686-1ほか				
はぎのたいらいせき	しもいなぐん あらむら せいないじ	20407	北緯 35° 30' 17" 東経137° 41' 01.8"	2015.11.16 ~2015.11.18	
萩の平遺跡	下伊那郡阿智村清内路 1047-1				

県内遺跡発掘調査報告書

—遺跡詳細分布調査7—

発行日 平成28年3月30日

編集者 長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課

発行者 長野県教育委員会事務局

〒380-8570 長野県長野市大字南長野字幅下692-2

印刷者 有限会社 小池印刷